



雨澤 勇太 (あめざわ ゆうた)

活断層・火山研究部門 地質変動研究グループ

今年度より活断層・火山研究部門地質変動研究グループに着任しました雨澤勇太と申します。専門は地震学です。2022年3月に弘前大学大学院理工学研究科で学位を取得し、地震テクトニクス研究グループでポスドクとして1年半勤務しました。その後、東京科学大学(旧東京工業大学)理学院地球惑星科学系で助教として1年半勤務しました。

私の研究興味は「地殻流体と地震・火山活動の関係」です。P波・S波が反射・散乱されて生じる後続波を活用した地球内部構造の研究や群発地震の研究を行っています。今後は、長期的な地質変動と火山性流体の評価に関する研究に取り組み、地層処分等の社会実装に科学で貢献していきたい所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



新谷 直己 (あらや なおき)

活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ

活断層・火山研究部門マグマ活動研究グループの新谷直己と申します。2020年3月に東北大学で学位を取得しました。その後は、大学院の教育プログラムに従事をして博士人材の育成に携わりました。私の専門は火山学・岩石学です。火山噴出物に含まれる鉱物やガラスには、火山の地下でいつ・どういった現象が起きていたかが、化学組成として記録されています。元素濃度や組成の細かな不均質さを調べて、数値シミュレーションを組み合わせることで、噴火の発生メカニズムについて研究してきました。産総研では、これまでのスキル・経験を発展させて、火山の活動予測に関する研究に取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



池永 有弥 (いけなが ゆうや)

活断層・火山研究部門 大規模噴火研究グループ

活断層・火山研究部門大規模噴火研究グループに配属されました池永有弥と申します。東京大学大学院理学系研究科で学位を取得後、同大学地震研究所で2か月、同大学理学系研究科で1年、ポスドクとして在籍していました。これまでは主に伊豆大島をフィールドとして、爆発的噴火の推移やメカニズムを地質・物質科学的に調べてきました。昨年度からは火山性津波に関する研究にも携わっています。

これまでの火山研究のバックグラウンドに加えて火山性津波に関する研究で経験した手法も取り入れながら、噴火の履歴や推移、マグマシステムや噴火メカニズムの解明を通じて火山災害の軽減に貢献していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。





木尾 竜也 (このお たつや)

活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループ

ガタガタ——窓が音を鳴らし身体が揺れると、皆さんは何を思い浮かべますか？多くの方が地震を疑うかもしれませんが、私を含む多くの鹿児島県民にとってとっさに思いつくのは桜島の噴火です。そんなことから、大学では故郷に関わる研究を行いたいと火山の道に進みました。

私はこれまで、約1.3万年前の桜島最大の噴火である薩摩噴火を対象に、その噴出物の調査・分析から噴火推移の復元に取り組んできました。今後、マグマ活動研究グループの業務では、今までの研究を継続しつつ桜島—始良カルデラ系のマグマ活動の時空間的变化に関する研究に従事します。火山活動の中長期予測に資する成果を得られるよう励みますので、どうかよろしくお願いたします。



太田 耕輔 (おおた こうすけ)

活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループ

活断層・火山研究部門活断層評価研究グループの太田耕輔です。東京大学で学位取得後、産総研で約2年間特別研究員として所属しました。

私はこれまで、地質調査に加えて放射性炭素年代測定の手法開発を通じて、過去の自然災害の発生時期を高精度で解明する研究を行ってきました。具体的には、山梨県の本栖湖で掘削された堆積物の花粉化石や湖水の分析により、過去の富士山噴火の時期を高精度に推定しました。また、産総研では主に九州・中国地方の沿岸域・陸域の活断層調査を行っています。今後も、積極的に活断層研究に取り組むとともに、それらの成果を通じて政府の活断層評価や産総研が掲げるレジリエントな社会の構築に貢献したいと思います。



井上 智裕 (いのうえ ともひろ)

地圏資源環境研究部門 物理探査研究グループ

太陽活動などにより地球内部では、電磁場の変動が起きることで電流が流れていますが、その変動を地震や音のように体感することはできないと思います(残念ながら私は体感できません)。私は、地中を流れる電磁場を観測し、地下構造を電気の通りやすさとして可視化する物理探査研究に取り組んでいます。観測データから比抵抗構造をモデリングし、流体分布やマグマ供給系、内陸地震の発生場を推定しています。これまでに阿寒カルデラ、伊豆東部火山群や丹那断層周辺で電磁探査を行ってきました。その際には、各地域の地質や地形を目で感じ、特産品の美味しさを舌で感じ、調査の難しさも感じながら研究を進めてきました。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。





石橋 未来 (いしばし みく)

地圏資源環境研究部門 地下水研究グループ

本年度より、修士卒研究職として地圏資源環境研究部門の地下水研究グループに配属されました石橋未来と申します。私はこれまで火山地域を対象に、水質や同位体比、CFCsなどを用いた水文学的手法により、地下水の流動過程の解明に取り組んでまいりました。今後は主に「水文環境図」の作成業務に携わる予定です。流域全体の地下水の流れや水質の可視化を通じて、地域の地下水資源の適切な利用と保全に貢献したいと考えております。

今後は恵まれた研究環境で日々を過ごせることに感謝しながら、分野を問わず多くの方々と積極的に交流し視野を広げることで、さらなる自己研鑽に努めてまいります。これから何卒よろしくお願ひ申し上げます。



長澤 真 (ながさわ まこと)

地圏資源環境研究部門 鉱物資源研究グループ

地圏資源環境研究部門・鉱物資源研究グループの長澤 真です。出身は神奈川県藤沢市で、早稲田大学創造理工学部環境資源工学科を卒業後、東京大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻で博士（理学）の学位を取得しました。その後、産総研特別研究員として1年間、同グループに所属しておりました。

専門は地球化学で、これまでは放射光を用いたX線吸収微細構造（XAFS）法などによる化学種解析に基づき、希土類元素鉱床の成因解明や地化学探査に関する基礎研究を行ってきました。今後はこれまでの知見を活かした応用研究（探査法の確立や製錬工程に関する研究など）にも挑戦していきたいと思っています。ご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。



中西 諒 (なかにし りょう)

地質情報研究部門 海洋地質研究グループ

故郷である北海道にて高校理科教員を4年勤め、東京大学大気海洋研究所で博士号を取得し、京都大学で特別研究員を経て地質情報研究部門の一員となりました。

博士課程までは北海道西部太平洋沿岸において津波堆積物調査を行い、千島海溝や北海道駒ヶ岳噴火に伴う津波の履歴や規模の研究に携わってきました。ポスドクでは研究船調査によって堆積物コアや浅部地層断面を取得し、観測地震による土砂移動を調査しました。

海洋地質研究グループでは表層堆積図を担当することで、堆積物輸送のSource to Sinkを考える上で重要な情報をまとめたいと考えています。地震による土砂移動を再現することで、地層記録から過去の震度分布や震源を推定することを目指しています。

